

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

本校生徒の平均正答率は山梨県や全国と比較するとやや下回りますが、前年度と比較すると全国との差が縮まる傾向にあります。

国語では、「語句を適切に使うこと」や「文章の要旨を捉えること」、「文脈から言葉を類推すること」は県の正答率を上回ることができました。これは朝読書等の読書経験が活かされていると考えています。課題は、本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことです。そのため授業では、文章のどの部分に着目し、どのような事柄を基にして内容を理解したり想像を広げたりしたのかなど、根拠を明確にして説明する指導を充実することが求められます。

数学は、毎時間の計算練習の積み重ねにより、計算能力が身につけてきていることがわかります。課題は、扇形の弧の長さや円の面積などの公式を覚えていないことや覚えていてもうまく使うことができないことがあげられます。また記述式の問題に課題があり、「問題解決の方法を数学的に説明する」では、自分の考えを文章にして説明する力や発想力が弱いと考えられます。問題文から関係式を立てることができない生徒が多かったことも課題としてあげられます。自分の考えを表現したり、友だちの考えを聞いたりする時間を授業さらにで取り入れ、書く力を伸ばしていくことが必要になります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

アンケート結果を見ると、生活に関する項目では、概ね全国や県の結果を上回っていますが、家庭学習にかかる時間に課題が見られます。教科や授業に関する質問でも、肯定的な回答が多いのが本校の特徴です。特に、自分の考えを深めるために話し合い活動取り組むことが好きであり、得意であるという意識が強いことがわかります。また規範意識も高く、「学校の規則を守っていますか」に「あてはまる」と答えた生徒の割合が81%で、全国や県の結果を大幅に上回っています。そのほか、「将来の夢や目標を持っていますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」などの質問に、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均より10%以上高いという結果になっています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

「主体的に学び、豊かで思いやりのある心を持つ生徒の育成」～ユニバーサルデザイン環境と授業づくりによる学力の向上を目指して～を、校内研究のテーマに掲げ、昨年度から授業改善・実践的な授業研究に取り組んでいます。その具体策として、確かな学力の向上の推進を図るため、RS8（竜中スタンダード8つの視点）を取り入れ、授業では生徒たちが1時間の授業の中で何を学ぶのかが明確にできるよう「見通し」と「振り返り」を大切に授業を行っています。このようにユニバーサルデザインの視点を取り入れた工夫した授業づくりにこれからも取り組んでいきます。また全国学力学習状況調査の結果や県学力把握調査の結果を有効に活用した学習指導・生活支援に努め、これらの調査結果や分析した資料をもとに、今後も「確かな学力の向上」について地域・家庭・学校と連携した取り組みを進めていきます。また学校生活の中で、お互いを認め合う関係づくり、上級生が手本として学校のリーダーとなるような組織づくりを推進していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

県教育委員会から出された「家庭学習のすすめ 学びの甲斐善八か条」を利用し、自主学習を行うことを推奨しています。本校生徒のアンケート結果を見ても家庭学習の習慣化が課題となっています。ご家庭においても学習時間の確保や内容の点検などにご協力をいただきたいと思います。また学校から配布される様々なお知らせと一緒に見ることも会話をつくる機会となります。これからも生徒の健全育成のためにご理解とご協力を引き続きお願いいたします。